

視察・研修報告書

視察者	原田真光
日時	令和6年10月10日(木) 10時30分～12時
場所	東京都武蔵野市緑町2丁目2番28号 武蔵野市役所
テーマ	市民の共助で2040年に備えるテンミリオンハウス
対応者 (講師)	武蔵野市健康福祉部高齢者支援課 課長 吉田 竜生 武蔵野市健康福祉部高齢者支援課管理係 係長 大橋 大輔
<p>概要</p> <p>1. 東京都武蔵野市について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和22年11月3日 市制施行</li> <li>・人口令和6年4月1日 現在148,079人</li> <li>・面積10.98km<sup>2</sup></li> <li>・人口密度13,481人/km<sup>2</sup>埼玉県蕨市に次いで全国第2位</li> <li>・財政力指数1.507(令和5年度決算)</li> <li>・全市的な町内会・自治会が無い(類似施設としてコミュニティセンターは市内16箇所有り)</li> </ul> <p>2. テンミリオンハウス事業開始の経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武蔵野市は介護保険制度開始以前から在宅介護支援センターを中心とした小地域完結型の福祉サービスを提供してきたが、介護保険制度では高齢者介護の一部分しか担えないとの考え方から、平成12年(2000年)に介護保険条例とともに、高齢者の総合的な支援を掲げた「高齢者福祉総合条例」を制定</li> <li>→現在の地域包括ケアと同様の理念を先取り</li> </ul> <p>3. テンミリオンハウス事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険導入直前に要介護認定モデル調査を行うと約3割の方が要介護認定の非該当になることがわかった</li> <li>→地域の支え合いによる、高齢者の通いの場(テンミリオンハウス)を創設(高齢者が支える側にも)</li> <li>・使われていない資源(市への寄贈物件等)活用</li> <li>→空き地活用事業とは性格が異なる</li> <li>・テンミリオンハウスの配置は半径500m圏に一つ(市内に7箇所)</li> <li>→但し、現状では良い物件がなく空白地帯有</li> <li>・運営は地域の市民団体やNPO等が行い、年間1,000万円を上限として補助</li> <li>・利用者の要介護・要支援認定等は不要</li> <li>・予算は一般会計(介護保険特別会計だと利用条件等が発生するため、また東京都の居場所づくり関連施策により二分の一は都の負担)</li> </ul> <p>4. 運営団体の公募・決定</p> <p>市報等で公募→相談会開催 希望団体が公募→事業提案提出</p>	

有識者会議、事業採択・評価庁内委員会においてプレゼンテーション→採点  
委員会から市長への運営団体の推薦  
運営団体の決定(補助金交付決定)  
5年に一度更新

#### 5. テンミリオンハウスの1日(例)

- ・豊富なプログラム(自立生活体操、ヨガ体操、太極拳、編み物教室、パッチワーク、絵手紙、書道、水墨画、大人の塗り絵、俳句、詩吟、朗読、コーラス、囲碁、健康麻雀、認知症予防ゲーム、初心者パソコン相談、初めての英会話など)
  - ・午前中のプログラムだけ受けて昼食後に帰る方もいる
- 昼食は20食未満(それ以上は保健所の検査や調理師免許等が必要になる)  
→昼食は弁当ではなく全ての施設でキッチンを備えておりそこでのスタッフによる調理  
→昼食は前日までの予約(大抵はプログラム後に翌週の分の予約をしている)

#### 6. テンミリオンハウス事業の今後と課題

- ・事業を開始して20年以上経過しており、事業内容の検討が必要な時期に差し掛かっている
  - ・武蔵野市の高齢者人口がピークになると予想される2024年に向け、世帯主が65歳以上の単独世帯や夫婦のみの世帯が増加していく中、空白地域における開設に引き続き取り組む
- 事業実施場所の確保が課題
- ・既存施設の劣化度に応じ必要な改修を行い、事業を継続する
- 事業を開始して20年以上経過しているので老朽化が進んでいる施設もある
- ・地域共生型社会の実現を目指す中、今後テンミリオンハウスにどのような役割が求められるのか、関係者、有識者等による検討を行う
- 高齢者向けに特化するのではなく、幅広い世代が利用できる方向へのシフトも
- ・スタッフの確保
- スタッフも高齢化が進んでいる

#### 所感

テンミリオンハウス事業は、介護保険制度導入時に要介護認定に該当しないが支援が必要な高齢者を対象に、高齢者の居場所を提供する目的で始まった取り組みである。事業名の「テンミリオン」は1,000万円を意味し、この額を上限に民間地権者や地域団体、NPO等と協力し、高齢者のための居場所を整備するというユニークな制度である。

武蔵野市は町内会や自治会が存在せず、その代わりに地域活動が盛んな自治的な特徴を持つ。これに対し、本市では28の行政区を単位とした公民館活動が活発であり、状況に違いはある。しかし、高齢者が歩いて通える範囲内で居場所やミニデイサービスを提供するという仕組みは、本市でも大いに参考になると感じた。

事業担当者からは、近年のインフレーションの影響により、テンミリオン(1,000万円)の予算内で事業を進めることが難しくなっていると説明があったが、事業名にとらわれず柔軟に運営することの重要性が示唆された。また、一部の施設では高齢者同士の交流にとどまらず、子育て世代との交流の場としても機能しており、PTAが主体となって運営するケースもある。世代を超えた交流の実現は、共生社会の構築に向けた重要

な一歩であり、そのきっかけとなる場としてテンミリオンハウスは十分に役割を果たしている。

本市では、公民館がテンミリオンハウスに類似した役割を果たしている側面もあるが、例えば、市への物件寄贈があった際の活用方法として、テンミリオンハウスの事例は参考になると考える。また、施設の利用促進には、プログラムの充実が重要である。外部講師の招致や利用者自身が講師となる仕組みを導入するなど、多様な取り組みを検討する必要がある。

－作成者 原田真光－